

# 2020休眠預金 PO研修用資料

## ～地域を一番知っている（理解している）中間支援になりたい～

2020/11/17

公益財団法人 長野県みらい基金

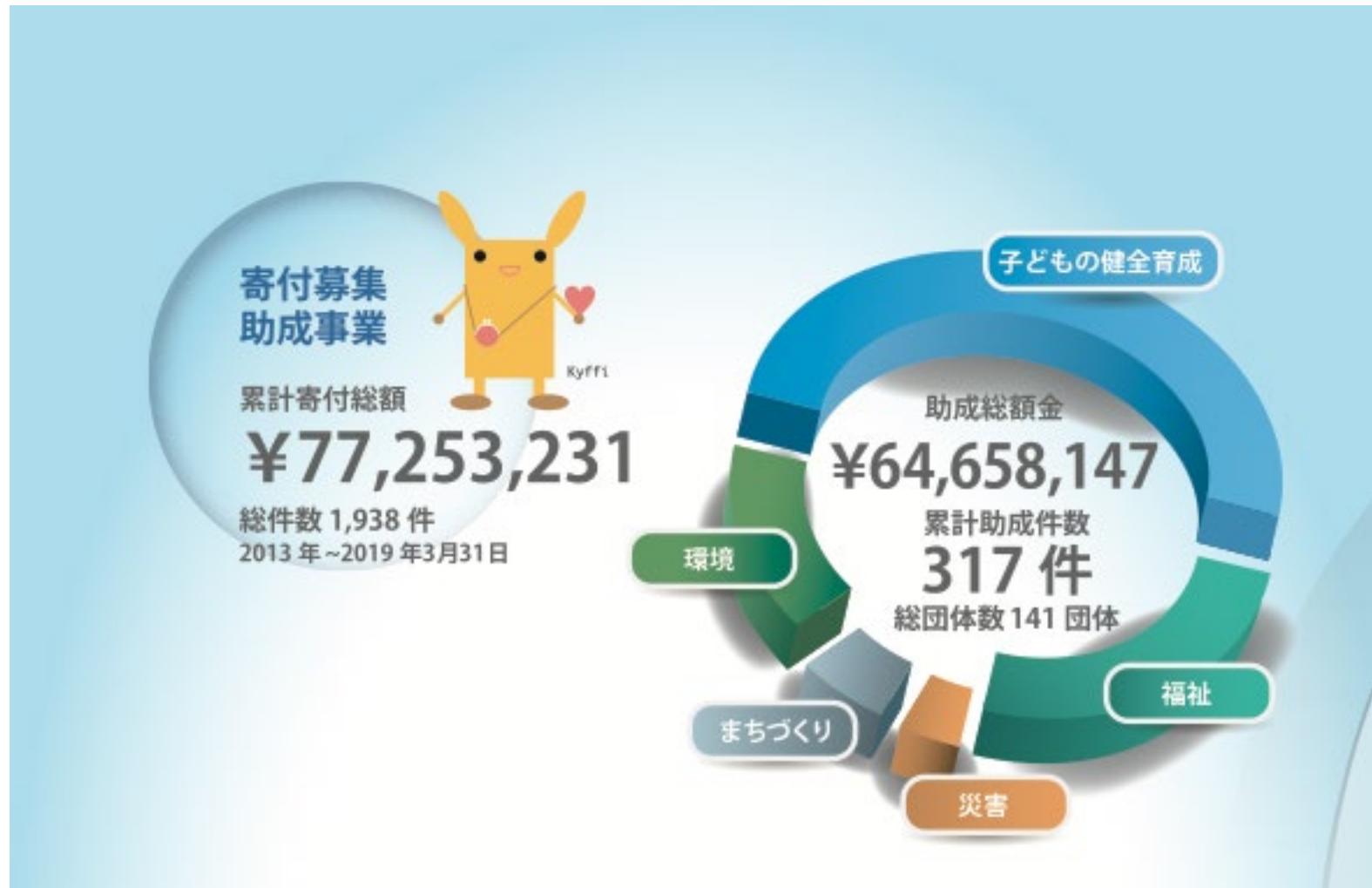


2012年12月	長野県みらい基金設立
2013年2月	NPO法人格取得
2013年4月	寄付募集サイト 「長野県みらいベース」オープン
2014年2月	認定 NPO法人格取得
2016年度	長野県みらいベース寄附総額 年間 1,000 万円突破
2017年度	長野県みらいベース寄附総額 年間 2,000 万円突破
2018年12月	公益財団法人 長野県みらい基金認定
2019年3月	認定 NPO 法人を解散
2019年4月	公益財団法人として正式に活動開始

長野県みらい基金は、長野県が構築した寄付募集制度＝寄附サイト「長野県みらいベース」を運営する法人として平成 25 年（2013 年）に設立されました。

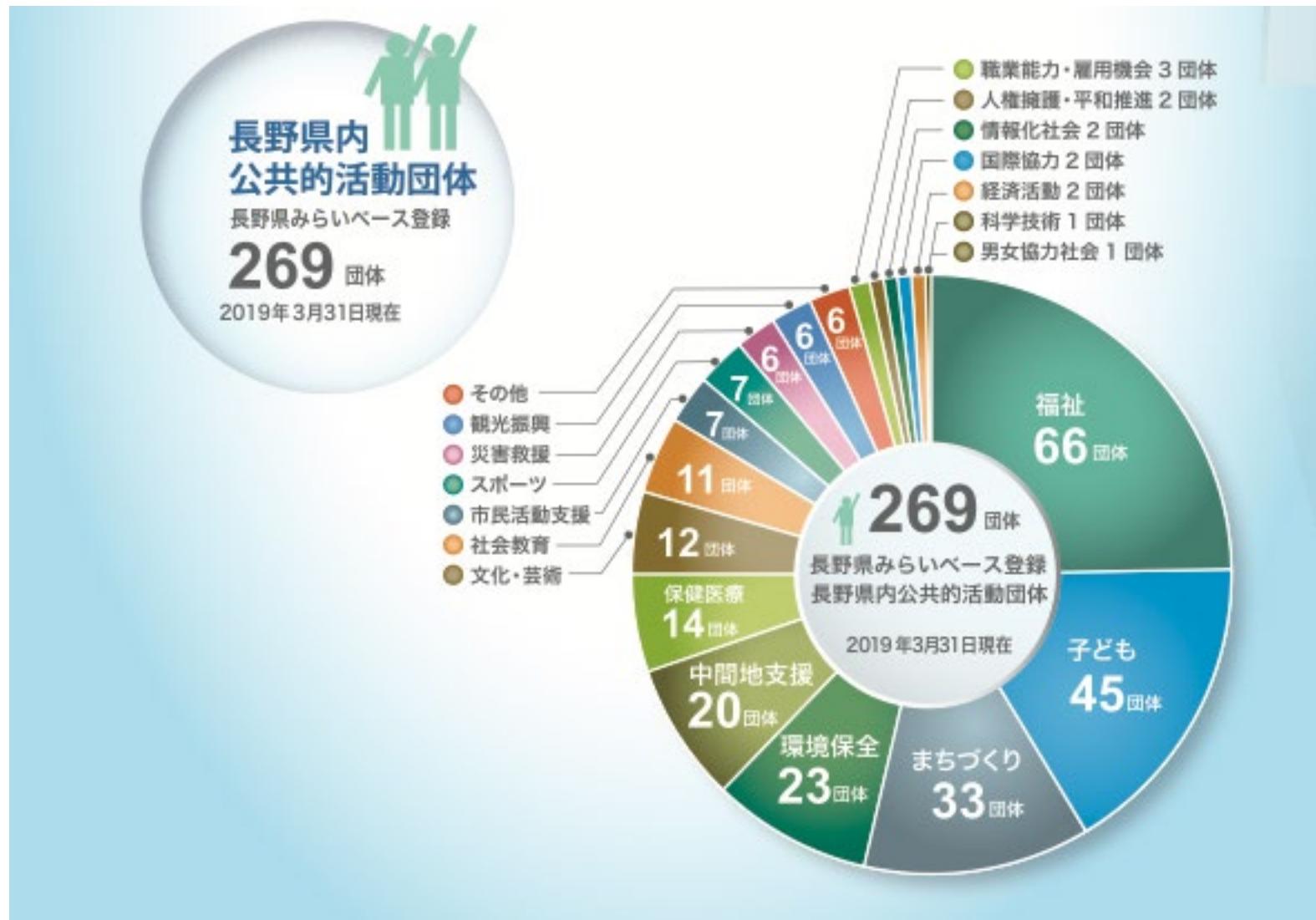
設立より認定 NPO 法人として 5 年を経て、2018 年から、より資金力を強化し、より地域の公益活動を支援するために、公益法人化を進め、2018 年 10 月に 167 人（個人・団体）の賛同・発起人の方々のご支援で、財団設立金 300 万円が集まり、2018 年 12 月 1 日、長野県知事より公益認定証が交付され、公益財団法人長野県みらい基金が生まれ、2019 年 4 月 1 日より、公益財団法人長野県みらい基金として正式にスタートいたしました。

これまでの寄付募集・助成活動に加え、これまで以上に、地域の公益活動を支援するために邁進いたします。  
引き続き、長野県みらい基金をよろしくお願ひいたします。



寄付サイト長野県みらいベース

2020年12月現在 累計寄付総額 **¥101,018,159円-**



**寄付募集・助成事業**  
社会貢献活動を行うNPO等公共的活動団体への寄付金を集め、助成する事業。

**事業指定プログラム** NPO等公共的活動団体のプロジェクトを支援します。  
● 2013年～2019年3月 117プログラムの実施

**冠・チャリティ基金** 寄付者の名を冠した基金を設立して地域を応援します。

- ▶ JAながの JAながのこども共済みらい基金
- ▶ 長野ろうきん 安心社会づくり助成金
- ▶ サンプロ おひさま基金
- ▶ 長野ろうきん こども基金
- ▶ 連合 連合長野ふれあい基金
- ▶ 産業労働組合 JAM 甲信ハート基金
- ▶ 東御電気 とうみ Happy Animal's 基金
- ▶ 富士労組松本支部冠基金 子どものMIRAIのために
- ▶ 真田子ども応援基金

**団体指定プログラム** 団体の活動を応援します。

**地域分野指定プログラム** 地域や分野を指定して応援します。

**その他の主な寄付者**

**冠基金**

- 中谷商事株式会社
- 医療法人登誠会
- 角田産婦人科内科医院
- 情報労連 長野県協議会
- 連合長野 地区協議会
- 国際ソロブティミスト長野・みすゞ
- 国際ロータリークラブ第2600地区
- ライオンズクラブ 334-E 地区
- 軽井沢ライオンズクラブ
- 安曇野遊技場組合

**チャリティ基金**

- 信州宝歌(チャリティCD発売)
- ピアフェス信州実行委員会

助成事業受託	2019年	日本財団	海と日本プロジェクト 第三の居場所
			休眠預金 資金分配団体

## 基盤強化事業

NPO 等公共的活動団体が、より良い事業を展開できるよう、組織力・事業力の向上を図ります。

## パートナーシップ事業

さまざまなセクターが得意分野を活かし、社会を支えることができるよう、パートナーシップを推進します。

▶ 会計、法務、IT、マーケティング、ファンドレイジングなどの支援

▶ 県内各地域こども支援プラットフォーム構築

- 佐久こども応援会議
- 譲訪圏域こども支援プラットフォーム
- 松本地域子ども応援プラットフォーム
- 北アルプス地域子ども応援プラットフォーム
- 木曽地域「信州こどもカフェ」推進会議
- 上伊那地域子ども応援プラットフォーム
- 南信州子ども応援プラットフォーム

● 「全国コミュニティ財団全国研修会長野」開催

● 介護保険制度改定研修会

● 日本財団「海と日本プロジェクト in 長野」

● 将来世代応援県民会議「コレクティブインパクト」研修県内4カ所開催

● 「広がれ、こども食堂の輪!全国ツアー」長野大会開催

● 「子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン」開催

● JA ながの子ども支援

▶ 長野県寄付サイト「長野県みらいベース」運営

▶ 長野県プロボノマッチングサイト「プロボノベース」

▶ 全国レガシーギフト協会「いぞうの窓口」

▶ 長野県将来世代応援県民会議官民協働事務局

申請事業名:

支援と地域資源連携事業で「困難を有するこども若者その家庭の課題を地域ぐるみで解決する事業」

長野市 食の循環システム構築事業  
経済的困窮を食の循環で支援するためのプラットフォーム

安曇野市 地域巻き込み型共生社会の実現！

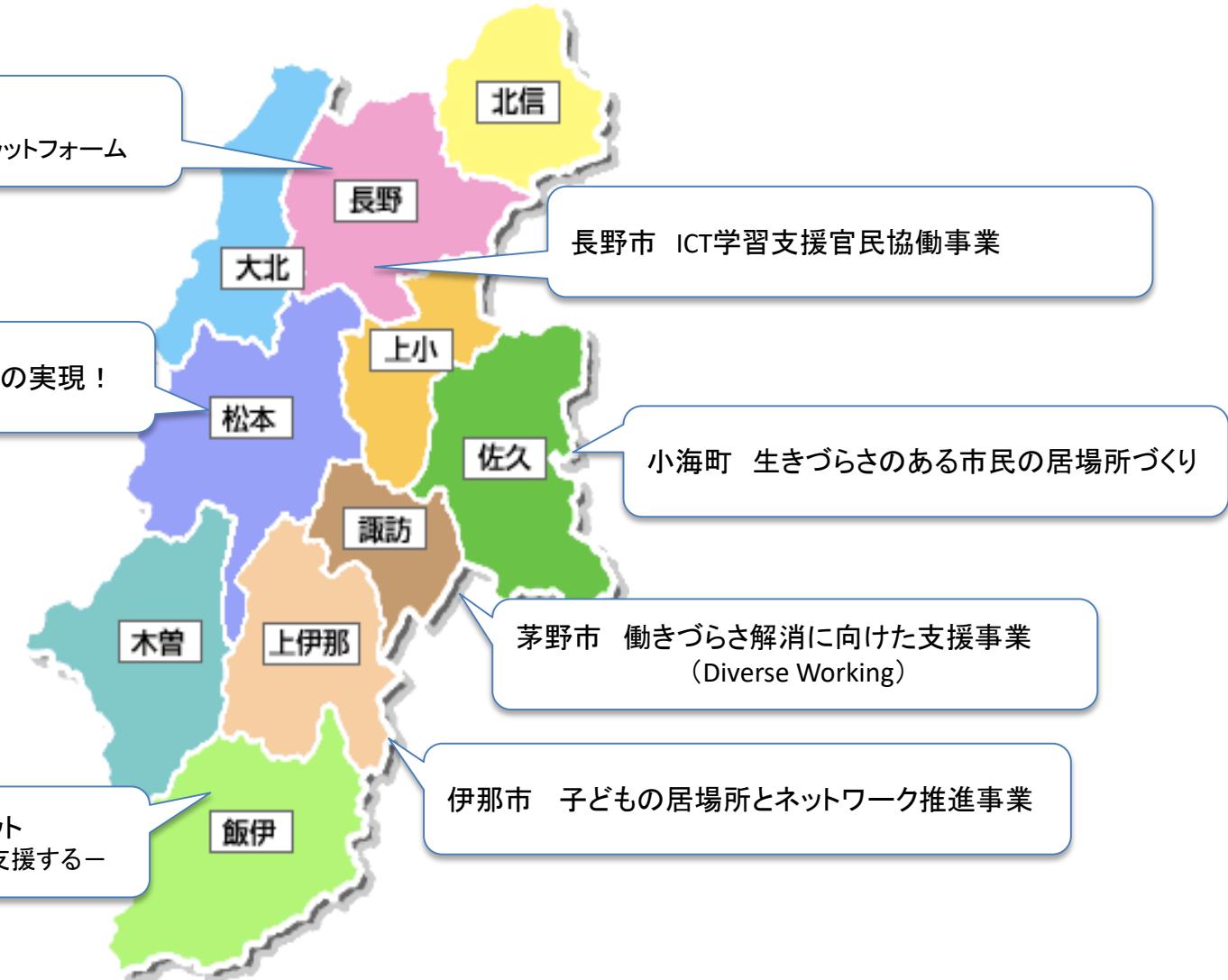
飯田市 人形たちとつくるコミュニティスポット  
ー誰もがわいわい集まって人形劇をつくることを支援するー

長野市 ICT学習支援官民協働事業

小海町 生きづらさのある市民の居場所づくり

茅野市 働きづらさ解消に向けた支援事業  
(Diverse Working)

伊那市 子どもの居場所とネットワーク推進事業



申請団体名	申請事業名	本拠地
(一社) ふれジョブ長野支部	生きづらさのある市民の居場所づくり	小海町

JR 小海線小海駅駅舎の JA 長野八ヶ岳の営業所跡地を有効活用する。

小海町、JA長野厚生連佐久総合病院小海町診療所をはじめとする南佐久6町村の関係部局とも緊密に連携を図りながら、既存の枠組みに留まらない多業種連携に則った中長期的な運営体制を確立する。

南佐久 6 町村に未設置の中間教室の機能、小海高校の生徒を対象とした居場所カフェ、不登校からひきこもりの状態にある全世代の当事者を対象とした自立支援、居住支援の実現も視野に入れた事業展開を構想する。

南佐久地域  
小海町、南相木村、北  
相木村、信濃川上村、  
南牧村

## 八ヶ岳東山麓、ほとん どが中山間地、高原野 菜、小海線

## ぷれジョブ 障害者を地域で支える 子ども若者支援

高校生は小海駅利用  
南佐久地域循環バス  
小海駅隣に障害者施設

官民協働  
コレクティブインパク  
駅舎内居場所  
病院 行政 住民  
障害者施設

## 事業遂行のポイント

## 南佐久地域の要、 小海町の協力

## 顔の見える関係 行政だよりにしてい る傾向

学生 障害者  
高齢者 住民  
多様な対象

医療従事者 教員  
保健師 障害者支援  
行政マン  
多様な主体

## 伴走支援の視点

## 住民、主体以外の巻き込み力

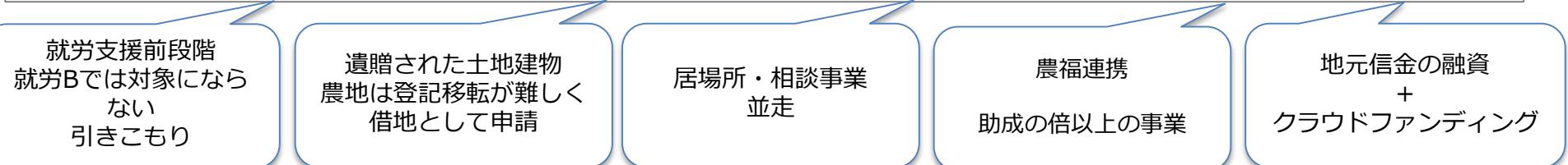
### 事業の絞り込みとゴールのイメージ共有

申請団体名	申請事業名	本拠地
(特非) ふくろう SUWA	働きづらさ解消に向けた支援事業 (Diverse Working)	茅野市

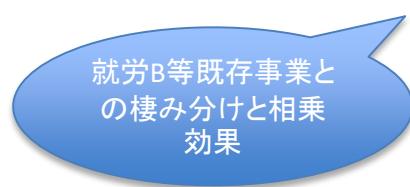
当法人で現在行っている就労支援事業のシイタケ栽培を核とした当事業を立ち上げる。

地域資源、社会資源との連携を図りつつ、シイタケ栽培を通して当事者の状況に合わせた就労準備訓練、就労訓練プログラムの実施と地域企業での就労体験、就労訓練を合わせて行うことでの一般就労向けた支援と困難を抱える若者や家族が安心して居られる居場所づくりをしていく。

相談窓口は数多くあるが一貫性、継続性に課題があり使いにくさ解消のための新たな相談支援の流れの構築を行う。



## 事業遂行のポイント



伴走支援の視点

対象者へのアプローチ

地域ステークホルダーへの広報、連携

申請団体名	申請事業名	本拠地
(特非) 子ども・若者サポートはみんぐ	子どもの居場所とネットワーク推進事業	伊那市

子ども食堂(信州子どもカフェ)の立ち上げ支援・相談窓口を設置するとともに、子ども・若者の成長を支える地域力を強化し多様な学びの選択肢を提供できる体制やシステムをつくる。

- ①不登校児童生徒の学校外の居場所づくり
- ②ニュースレター発行・HP作成しネットワークを構築する
- ③子ども・若者の自立支援者の支援 研修、支援者養成講座の開催
- ④はぐくみ食堂（信州子どもカフェ）の推進

※優先すべき社会の諸課題：①②④⑥⑦

上伊那地域の  
ネットワークあり

引きこもり支援経験値  
通信高校運営

市の新しい施設の利用

子ども食堂の地域拡大

事業遂行のポイント

伊那市以外の  
行政との連携

引きこもり経験者の  
新規の支援コンテ  
ンツの定着

助成終了後の継続

巻き込み力が強い分  
インパクトへの  
フォーカスがブレる

伴走支援の視点

最終インパクトの明確化  
(連携間同士)

地域のコロナ緊急助成団体  
と連携が生まれる

市町村 教育事務所 福祉事務所等関係機関への働きかけ 要所要所での道筋方向の確認

申請団体名	申請事業名	本拠地
(特非) いいだ人形劇センター	人形たちとつくるコミュニティスポット －誰もがわいわい集まって人形劇をつくることを支援する－	飯田市

人形劇という文化財の持つ特性を生かしたコミュニティを基盤とし、年齢や障害の有無に関わらず、人形劇に関心を持つ誰もがここに集まり、上演を目指し、制作に打ち込める場をつくる。

①若者たちが寄り添い、人形劇の制作から上演までの活動を実施。  
 ②高齢者たちが集まり、人形を作ったり、稽古を重ねたり、観客の前で上演を行う。  
 ③様々な障害や生きづらさを感じる人たちが集まり、人形劇を制作・上演することで充実感が持てるよう支援する。  
 ④空き民家を借り上げることで、まちの賑わいを創出する。

地域芸能を活用した  
子ども若者支援

市内の人形劇関係の  
協力者

子ども若者支援の  
経験値なし

行政との関係性あり

## 事業遂行のポイント

地域資源の  
違う切り口の活用

ターゲット年齢の確  
定（模索中）

地域の子ども若者  
支援団体との連携

事務能力高い

## 伴走支援の視点

他団体との連携

地域のこども若者支援団体とのマッチング

地域行政内引きこもり関係部署へのアプローチ

# 2019休眠預金

申請団体名	申請事業名	本拠地
(特非) Gland・Riche	地域巻き込み型共生社会の実現！	安曇野市

担い手不足に悩む地元農家と協力して、様々な課題を抱える人たちが、わさび田を整備し、守り育てることで、人々の生きる自信を育てるとともに、地元産業の保全に貢献する。

また、山際の荒廃農地を利用して、生薬栽培を行うことにより、生産単価の高い新たな農業をスタートする。安定した収入の確保を目指し、貧困問題等の解決を目指す。

いずれも多様性のある働き方を提案し、「新しい雇用のカタチ」の定着にチャレンジする。

農福連携  
わさび 生薬

遊休農地の活用  
観光資源づくり

障害者 引きこもり  
支援の経験あり  
行政関係性あり

力・魅力あるリーダー  
多彩な活動

## 事業遂行のポイント

わさび業者 生薬  
問屋との関係性  
構築

どのようにお金に変  
えていくのか→経営

既存事業との連携  
と区分  
事務能力弱

指向がブレる?  
スタッフがついてい  
けない?

## 伴走支援の視点

コロナ禍での事業の遅れ、業種の変化に対応するには

2021年度投資について  
薬膳料理店薬草茶連携?

事務力支援

スタッフ間の意識共有を図る

申請団体名	申請事業名	本拠地
(特非) IT サポート銀のかささぎ	ICT 学習支援官民協働事業	長野市

千曲市に学習困難な子どもたちの居場所づくりを行い、ICT を活用した学習支援を行うとともに、安心して居ることができる場所を作る。

事業には千曲市・千曲市教育委員会、千曲商工会議所などを取り組み、協働で事業を実施する。

多機関連携によって引きこもりの若者への職業あっせんや不登校改善を行い、その仕組みを ICT ポータルサイトにより全国へ発信する。

地域多機関連携  
商店街 戰略機構

ICT活用学習支援経験  
対象へのアプローチ力は

助成終了後の戦略  
地域ステークホルダー

インパクト見える化

## 事業遂行のポイント

地元有力者との連携  
リーダーシップは？

教育委員会がメン  
バー

地域づくりへの  
アプローチ

Webへのインパクト  
表出に偏ってない  
か？

## 伴走支援の視点

対象者にどうつな  
げるか

コロナ禍でオンライン活動へシフト

引きこもり等支援の経験値少なさを専門団体へマッチングか

情報発信力を他団体へ

# 2019休眠預金

申請団体名	申請事業名	本拠地
(認特非) フードバンク信州	食の循環システム構築事業 経済的困窮を食の循環で支援するためのプラットフォーム	長野市

困窮者支援を行う県内団体へ食品製造企業等で構成する「食の循環システム検討会議（仮）」を設置し、長野県内の困窮者支援の課題を把握するとともに、食品ロス削減のための仕組みづくりについて検討する。

県内企業 300 社を対象に、食品ロスと困窮者支援に関するアンケート調査を実施し、企業の実情を得ながら検討課題とシステム構築に反映する。

また、支援者と企業双方が活用可能なクラウドシステムを構築するとともに、セキュリティに配慮した食品の管理体制を確立する。

企業のフードロス意識  
広報宣伝の両立

提供食品のトレーサビリティ確立による  
信頼性とリピート

食品の提供と利用地のマッチングと  
見える化

提供・利用双方向の情報共有プラットフォーム構築

## 事業遂行のポイント

企業イメージと産廃費用の両立

出し手受け手双方の使いやすいシステム

単なる食品分配でないフードバンク活動

企業、市民が納得できる仕組みが作れるか

## 伴走支援の視点

成果、インパクトの確認、  
再設定

オール信州の検討会議メンバー

企業・行政・地域支援団体のシームレスな連携を生むシステム

# 2019休眠預金 現場POからのコメント

事業実施時と進行中の  
状況変化、新しい局面で  
伴走支援の中身は変化する

実行団体の事業は空んじて言え  
るように

アタリマエのことを言っても  
上から目線 指導されている感  
を相手は持つ

一緒に考え、一緒に悩み、  
一緒に喜ぶ

会話の主語は常に実行団体  
JANPIA 自団体は主語で使わない

出来ないことは、出来ないから  
誰か探してくる、と言う・

相手にわかりやすく明確に  
伝えられる

目標がぶれないように一緒に歩む

団体の強みと弱みを把握して対応  
できる

連携、協力、コミュニケーションを  
とれるように